

# 人気集めた東京都市大の科学体験イベント

東京都市大学は8日、小中学生が対象の第13回「大学で楽しもう!! 小学生・中学生のための科学体験教室」を世田谷キャンパスで開催した。

募集人数が888人という規模にも関わらず、即日に予約申し込みがいっぱいになってしまう大人気イベントだ。大学側も事務方だけでなく、25人の教授等や266人の学生がスタッフとして参加し、大学全体で科学教育に力を入れる日となっている。

48の科学体験ブースがあり、参加者は自分で好きなブースを選んで実験、工作、観察などの体験ができる。

## ◎ 科学未来館と協定

同大は今年4月に日本科学未来館と包括連携協定を結んだことから、同館協力による工作ブース（3D星

小中学生の目輝く

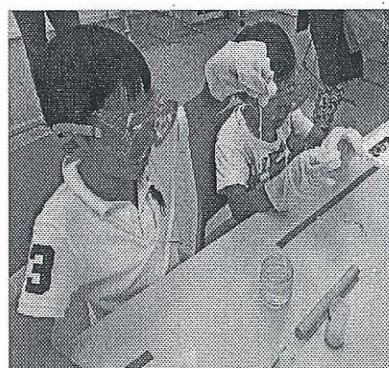
座箱）が展覧されていた。事前に、学生スタッフに対して、同館科学コミュニケーターが科学教室を実施するにあたっての実践講座を行った。

毎年人気の水ロケットを作って多摩川河川敷で飛ばす体験や、ゴーグルや手袋を着けて薬品を混ぜて糸（ナイロン）を作ったり、塩分濃度の違いで層が分かれる現象を利用して7色の水を作る体験ができた。

## ◎ 「鋳物づくり」新設

今年は、鋳物でプレートを作るブースが新たに加わった。砂を押し固めて型を作り、そこに金属を流し入れて鋳物を作る本格的なものづくり体験だ。参加者たちは、砂の型から出てきた鋳物を目を輝かして観察していた。

ナイロン糸づくりに取り組む小学生



同大教授が開発したソーシャルロボット・マグボットを日本語でプログラミングして動かす体験も人気だった。ロボットをしゃべらせたり、目や頭を動かすためのコマンドを親子で相談しながら打ち込んでいた。また、ブロックで家を作り、街のミニチュアの中に置いて、自分の家の

日照を観察する実験では、参加者は家自体の開口部を大きくしたり、家の位置を工夫するなどして、環境について体験的に学習していた。

## ◎ 実際に手で触れる

理工系の大学らしく、様々なプログラムが用意された科学体験教室。関係者は「近年、小中学校の授業で実験をすることが少なくなった。このイベントでは、実際に手で触ったり、工作を通じて、ものづくりを身近に感じてほしい。大震災前は、参加者の規模が倍ほどだったが、防災上の観点から人数を制限した。今がちょうど良いスケール」と話す。

熱中症対策の氷柱がキャンパス内のあちらこちに設置しており、参加した子どもたちは珍しそうに触って遊んでいた。大学が様々な体験を用意して、地域の子どもたちを受け入れることも大切な人材育成につながるのではないだろうか。